

iii) 庁内検討委員会の運営支援

【第1回総合計画策定委員会】

■日時：2022年3月17日（木）13：00～15：00

■場所：中城村役場会議室

■出欠：

- ・出席：副村長、各課課長（総務課、企画課、生涯学習課、住民生活課、都市建設課、上下水道課、農林観光課、こども課、福祉課、教育総務課、議会事務局、会計）
- ・欠席：税務課長、健康保険課長
- ・事務局：企画課、ST

■次第：

1. 挨拶
2. 審議
 - ・アンケート結果について
 - ・人口目標について
 - ・性的マイノリティ、気候変動など今日的な課題について
3. 閉会



■議事録：

①人口について

- こども課長 : 南上原の残り9%でどれだけの人口を受け止められるかわかるか。
- ST 森口 : 難しいと思う。空いた土地に何ができるかわからない。残った土地全てがタワーマンションであればそれなりの受け皿になるが、それは事業者次第。それに私見だが残ったところは他と比べて事業者ニーズが低いから残っているのではないかという見方もできる。
- 副村長 : 45年までは25000人までは人口は伸びるという考え方だが、水道事業の改正で計画人口を25000人に改正したので、それと整合をとる必要があるのでは。
- ST 森口 : 推計値は間違いないが、25000人にするためには村内の受け皿が必要。25000人は理論値なので現状でどうなるかは別の話。新しい市街地を作るとして、今から事業を採択しても10年では難しいだろう。また高齢化への対応も併せてご検討いただきたい。
- 企画課新屋敷 : 25000人は2045年の推計値なので、この計画の期間は2033年までなので、人口を25000人に設定するのは問題ないが、社人研の推計を上回る人口増になる。社人研に沿うと2035年で24000人くらいの推計値になる。この計画の中ではそれ以上に人口を伸ばすかどうかを考える必要がある。
- 福祉課長 : 高齢者推計は4000人と少しだが、2045年だと4500~600と考えてよいのか。高齢者が増えると介護保険費が増えるのはわかるし、実際高齢者は増えているし、サンヒルズはもっと高齢化するだろうと思う。南上原にしても高齢者が増えている。戸建てが増えると将来の高齢者人口は増えるし、障害者人口も増える。子どもに係る費用はある程度の所で止まるが、その分壮年、高齢者にかかる費用が増えてくる。積極的に人口を伸ばすよりも、この10年は増えるに任せて次の10年を見据えて体制を整える期間と考えるのが妥当ではないか。アパートの老朽化も問題で、老朽化して家賃が下がると、訳ありの世帯が外から入ってくることもあるし、生産年齢人口は新しいところを求めて移動する。アパートは時間がたてば経つほど入居者は減るし定着率も下がるので、アパートを増やせるだけ増やすのは危険。定着と生産性をどう維持するか。
- ST 森口 : 住民税だけで村の財政運営をしていくわけではないので、観光など村にお金が落ちる仕組みも考えながら、村全体の歳出をカバーする方法を考える必要がある。そういったところを含めた議論が必要。
- 生涯学習課長 : 沖縄の不動産状況、売り買いの状況や、賃貸に住んでいる人が今後をどのように考えているのかを知りたい。家を買うのは所得が上がるのがないと難しい。転勤等は別として、移りたいから移ろうかというのは今の県民所得では難しいと思う。そこら辺のデータがあれば見てみたい。また人口を伸ばすだけ伸ばしたあと、村はどこに向かうべきか。働ける環境がないと維持が難しい。村民の所得をあげるために、企業誘致を考えたり、就業場所、環境を整えることで村の豊かさを図ることも大切。
- ST 森口 : アンケートなどを見ると、定住希望の割合が高いが、20代、30代は転出可能性があると答えた割合が高い。特に中城の賃貸に住んでいる人の転出可能性があると答えた割合が高くなっている。
- 都市建設課長 : 人口推計についてはこれまでの実績に応じたものか。浦西などの開発も進んでいて、中城からの流出も可能性があるのではないかとされているが、そのようなことについても考慮されているのか。→されていない。
下地区の高齢者が土地を譲らなかったが、孫の世代になってきて、土地を売りに出したり、戻ってきたりしている。なので世帯数や人口は変わらずに平均年齢が

- 下がっていくかもしれない。農地に家を建てられないという課題はあるけれど、下地区の人口減はあまり顕著ではないのではないかと思います。
- 教育総務課長 : 南小ができたことが、人口増に一役買っているのと思う。教育環境で住むところを選ぶ人は多いので、中小、津覇小の整備などがされたらその時はそれが一役買ってくれるのではないか。
- ST 森口 : 調整区域の中の既存宅地に外から入ってくる人たちのための受け皿の開発は旺盛になっているのか。南上原は頭打ちだが、既存宅地の中に受け皿があると捉えることができるのか。→できると思う。
- 総務課長 : 県の人口が 2023 年がピーク、社人研推計は、直近の伸び率を考慮してこうなっているのはわかるし、現実的にはそうはならないのではないかという感じはする。ただここまで伸びているので、ここで伸ばす方向に行かないと魅力のない村のようになってしまうのでは。また 2023 年に県がピークになるのであれば、それ以降は県内でも奪い合いになるので、村の魅力を高めるための施策を打って減らさないようにする。水道条例の 25000 人との整合は必要なのでは。
- ST 森口 : 水道条例の目標年次はいつか。
- 上下水道課長 : 令和 15 年。人口に達しそうになったら常に改定はできる。
- 副村長 : 今の人口を減らさないようにすることが必要。働く場所を考える必要がある。他が減っているのに中城だけが増え続けるというのはおかしいので、出ていかないように留まってもらえるような施策が必要。
- 生涯学習課長 : 水道の給水人口は事業所などが含まれているのでは。村の人口とイコールで見ないといけないのか。
- 上下水道 : 水道の人口は余裕を見て設定している。
- ST 森口 : 少し余裕をみて設定するという水道の特性があるのであれば、必ずしも整合をとるといった必要はないかもしれない。上下水道課から情報をいただいてつめていく必要はある。
- 企画課長 : 今の中城は平均 1 世帯 2.4 人くらいなので、あと 500 世帯増える計算になる。これがどこに入れるか。南上原の残りど、既存宅地のあいている部分で現実的な数値なのか。あとは高齢者が増えるので、人口維持して高齢者の割合が増えるのは危ないと思うので、若い世代をどうやって増やすかというのは考える必要がある。
- 福祉課長 : 計画の中に、新しいまちづくりについては何等か入れるのか。例えば中学校の移転とか、まちづくり課ができて取組みを進めて、生活環境が良くなるということが、人口増につながるというようなことが入ってくるのか。人口増を支える施策の中にそれが入っているという事が良いとはならないか。
- ST 森口 : 具体的な文言が入っていなくても、事業をする根拠になれば総合計画としては問題ない。例えば中学校跡地をタウンセンターの赤丸の中で位置づけていくのであれば、もう少し赤丸を大きくしておいて企業誘致等の根拠にしたらい。
- こども課長 : 役場職員の状況が厳しい。人口増に対して職員も増やすべきだったが財政的な関係で増やせなかった。子どもも増えているが、比例して支援が必要な子供も増えていて、職員のマンパワーも足りないし、支出も年々増えている。予算や組織体制を見ると、人口については静観するというのが個人的な意見だが、魅力の話になると、現状維持というよりも、自然増に任せるという総合計画にした方が、様々な問題について良いのではないか。
- ST 森口 : 多くの総合計画は人口予測をまず持つてくる。それはわかりやすさと、人口の伸びが今後のモチベーションにつながる事が大きいですが、これまでの議論を踏まえると、中城は人口減少フェーズに入っていない状態で、高齢化に対する対応が

できるという事が他の多くの自治体に比べて非常に有利。なので人口の目標はあくまでシビアに、それ以外に稼ぐ事業で村民の所得や生活の質を上げる施策を合体させたらいいのでは。庁内の体制やマンパワーが不足しているのだろうという事は想像がつくが、今後は色々な面でチャレンジの総合計画にしてみてもいいのではないか。

企画課新屋敷 : どの総合計画も人口が一番初めに来るが、これまでの議論を聞いていると人口が伸びること＝豊かな村ではないのではと思ってきた。人口は現状維持で村民の所得が伸びている方がいいのではないかなど色々な考え方ができると思う。最初に人口と思い込んでいたが、もう一つ指標があったほうが良いのではないのか。満足度、幸福度のようなものか。

こども課長 : 見たことはないけど、説明もしやすいし、いいと思う。

福祉課長 : 福祉アンケート見ると、全体として住みやすくなっているという声は多い。けど生活基盤をもっとよくしてほしいという声は多い。交通、商業機能、役場の機能等。

ST 森口 : 今考えている指標は村民ニーズの把握とはまた違うので、指標はざっくりとしたものでいいと思う。“あなたは中城での生活に満足していますか”のような満足度を毎年調査する仕組みをつくってみては。

住民生活課長 : 人口の推計値については楽観すぎると思う。実績としては、久場の区画整理事業や南上原などを起爆剤として人口が伸びていったということでいいと思うが、今後はそういうわけにはいかない。今後の目標を作る根拠としては、城跡を起爆剤として城下町的発想で周辺を整備してみたら。登又辺りが増える要因があるのでそこを中心に施策を打ってみてはどうか。商業施設とか、観光とか、働く場とかの発想ができるのではないか。

S T 森口 : 歴史文化も中城に住んでいる誇りのような部分として総合計画には位置付けたいと思う。多面的に住みたいという気持ちを高揚させていくことが大切だと思う。

人口については青天井で伸ばしていくのではなく、村民が住み続けたいと思うような指標が出せないかは検討してみたい。

○性的マイノリティ、ヘイトスピーチ、気候変動、働き方について

総務課長 : ほぼ毎日のように新聞に載っているような内容でもあるし、村においても取り組むべきだと思う。

S T 森口 : 性的マイノリティについて担当課はどこになるか。

福祉課長 : 職員の中でも理解を進める必要があるのではそれは総務課、人権擁護の観点から啓発するなら福祉課。ただし役場に相談窓口を設置するには、専門職員を採用して腰を据えてやらないと進まない。周知啓発でいけば、総務課と福祉課が協力してやればいいし、将来的にパートナーシップ制度等も取り入れるのであれば住民生活課になると思う。職員の配置先は福祉課でもいいが、段取りを詰めて、計画的・戦略的にやらないと計画倒れになるのでは。

企画課新屋敷 : 今回の総合計画では主な取組みと担当課を入れるように考えている。今の議論はこのフォーマットに当てはめることが難しい。なのでこの中には入れずに今の時点では担当課などを決めないで、構想の中で入れる方がいいのか、明確にしておいた方がいいか。全課と書くか。担当課を入れているのは、自分がやっている事業が何に紐づいているのかを職員に分かりやすくするため。

議会事務局長 : 構想の中で県がやることをうちもやりまずではダメなのか。

ST 森口 : 構想はすごく大きな方針なので、事業に紐づけるには基本計画に落としておく必

- 要がある。構想の中に記載するには性的マイノリティは他と差がありすぎるように思う。構想はあくまで村づくりの大きな方針を示すもの。
- 企画課新屋敷 福祉課長 : 今すぐ決定ではなく、策定までに熟度を高めていただきたいと思います。
- 福祉課長 : (3)(4)は事業課が見えると思うが、事業課の意見はどうか。気候変動は大きいという感じはする。村があるべき姿という中で、身近に捉えにくいのかと思う。一方で、逆に打ち出すことで災害対策などの意識づけにはつながるという気もする。
- 総務課長 : 気候変動については何のためにやっているかを示すことはいいと思う。
- 生涯学習課長 : 気候変動は防災への意識を高めたりするためにもいいと思う。集中豪雨なども増えているし。子どもへの啓発なんかも含まれると思うので、何かしら入れてもいいと思う。再生可能エネルギーは微妙な所なので、気候変動とは違う視点で見て行くこともできるのでは。
- 総務課長 : 働き方改革は入れてもいいと思う。県でも公契約条例について問題になっている。村でも公共事業発注の請けての賃金の問題など見て行かないといけない。
- ST 森口 : 中城では再生可能エネルギーは積極誘致は難しいのでは。景観的にも地形的にも防災的にも。
- ST 森口 : 冷熱エネルギーについては、各課ヒアで今回は削除するという検討をしている。これまでずっと残っていたが、できていない。ただし今回外したからといって、永久に戻らないのではなく、将来的に取り組む必要があれば戻すことはできる。
- 〇〇 : 前の計画では新エネルギーについて書かれているが、新しい計画では地球環境に配慮した取組みのようにして、脱炭素に取り組むという方がスマートか。
- ST 森口 : 中城で再生可能エネルギーに取り組むときに村が旗を振ってやるというよりも、個人が家を建てるときに太陽光を取り入れるようにするよう進める、のような施策の方が現実的かもしれない。問題は耕作放棄地におけるソーラーパネル。内地でも問題が起きつつあるのでそれについて誘導を図るという事はかける。
- 企画課新屋敷 : 今日の議論をもとに進めさせて頂きながら、必要に応じてアンケートや今日のように集まっていたることがあると思うので、その際はご協力をお願いします。